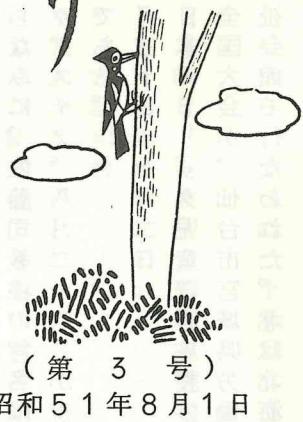


仙台司教区 教区事務所だより



◎司祭評議会第一回会合

小林司教様の引退に伴い、司祭評議会は、自動的に解散されていたが、七月十二日、新司教のもとに、新しい顔ぶれで初の会合が開かれた。

新評議員は次の方々である。

土井文雄師（総代理）、斎藤石雄師、小野忠亮師（以上教区司祭団）

ベルニエ師、フォーレ師（以上ケベック会）、スタッフエル師、ガイツセル師（以上ベトナム会）

トラン師、モリソン師（以上ドミニコ会）、ロペス師（グアダルペ会）

佐々木博師、佐藤守也師（以上司教直任）。任期は三年である。

司祭評議会は、司牧評議会と並んで教区の重要な機関の一つである。同会の規則第三条には、この評議会

が教区全司祭の意思の疎通をはかりながら、教区のいろいろのことがらについて検討し、方策を探求して、教区長を補佐するものである、と述べられている。今回は第一回の会合

でもあり、会の役割を再確認した後、広報活動、司祭研修会、神学生の召命と養成について、等の問題が議題として取りあげられた。

新しい司教のもとに、新しい一步を踏み出した仙台司教区が、司祭の一一致と協力を通して、新しい姿へのよみがえりが実現するよう、この評議会の健闘が期待されている。

なお、すべての司祭は、この司祭評議会を通して教区長と共同責任を持つように、教区民全信徒の教会行政参与の窓口には、司牧評議会がある。

今年の四旬節に行なわれた愛の募金は全国集計で二六〇〇二、七四五円に達した。この献金は、全国二十か所の施設に配分されたが、仙台司教区は、次の三か所の施設が、合計三九〇万円の配分をうけた。

(1)萩の郷福寿苑（苑長島村泰三氏）二〇〇万円→ねたきり者輸送のためのライトバン購入のため。

(2)暁生園（施設長川井啓師）一五〇万円→特別入浴装置のため。

(3)いづみ授産所（責任者三浦幸子氏）四〇万円→授産訓練用ミシン購入。

七月五日、佐藤司教からそれぞれの責任者に配分金が伝達されたが、萩の郷福寿苑における伝達のスポーツは、N H K テレビのローカル番組で放映された。

ちなみに、今年度、仙台司教区が愛の募金として献金した小教区からの献金の総額は七五万三千円弱で、配分受領額の約五分の一にしかならない。

四旬節
“愛の募金”
配分伝達

愛の募金の配分を申請出来るのは必ずしもカトリック施設とは限らない。非キリスト者の経営になる施設であっても、定まった様式の申請書を整え、その地の主任司祭の推薦があれば、だれでも配分の申請をすることが出来る。

今年度の申請は、一応九月半ばごろ、仙台司教区で審査され、その後、十月十八日の全国委員会に送られ、そこで来年度の配分先や額が決定される。配分金申請について詳細を知りたい方は、教区事務所、又はカリスト・ジャパン担当本間神父に、お問い合わせ下さい。



ミニ情報

- 六月二十三日（宮城県カトリック幼稚園連盟研修会開催）
テーマは『これからの中児教育』。
講師：安斎伸氏。場所：仙台市木ノ下、聖ウルスラ学院幼稚園。
九三名が、八つの分科会に分かれて研修した。
- 六月二十三日（二十四日（岩手県カトリック幼稚園研修会開催）

テーマは『感動』。

八十三名が、ツーゲル師の基調講話の後、四つのグループに分かれ、絵画、陶器など実習を行った。

佐藤司教、ルカ管区長も出席した。
(久慈教会アーリント参照)

● 六月二十七日（小林司教様への感謝ミサ）

聖ペトロを保護の聖人と仰ぐ司教座聖堂元寺小路教会で、同じ聖ペトロの靈名を頂く小林司教様への感謝のミサが、二十七日、佐藤司教と共に唱ミサで祝われた。

例年、小林司教様は、この祝日に司教ミサを祝っていたのであるが、退任後初めての祝日とあって、くりあげて日曜日に、感謝のミサが祝われたものである。

● 六月三十日（七月二日）
日本カトリック児童収容施設協会全国大会が、仙台市宮城県労働福祉会館で行なわれた。北は北海

シスター

ブランモンドン・デニス

（無原罪聖母修道会会員）

会津若松無原罪聖母修道会のシスター・デニスは、六月二十八日、四十年の生がいを天の御父の御手に委ねた。燃ゆる宣教の熱情やみがたく、希望がかなえられて来日したのだったが、わずか十か月で、主の御もとに帰つて行った。

略歴

一九五九年	カナダに生まる
一九七五年二月	終生誓願
一九七五年八月	修道会入会
一九七六年六月二八日	帰天
葬儀は六月三十日午後一時、三時、郡山カトリック墓地に埋葬された。同会が日本に来て以来、日本の土となる同会最初の会員である。	

その奉獻を心から感謝したい。



道から南は九州に至るまで、全国三四の児童施設を代表して六五名が集まつた。元家庭裁判所判事・森田宗一氏を講師に招き、『子供を育てる心』のテーマの下に、カリックの立場から、施設という特殊環境の上に立った子供の教育について、深い研修がなされた。カリタス・ジャパン担当野口司教も、広島から来仙した。

これは、去る六月一日に開かれた女子修道会総長管区長全国大会に次いで、仙台教区で開かれた二度目の全国大会である。

七月四日（仙台一本杉教会二十周年記念ミサ）

昭和三十一年七月十七日、豊屋町教会から別れて一本杉教会が誕生。

◎八月の司教様の日程

（七月十日現在判明分）

八 日	四国高松訪問。ドミニコ会士の司祭叙階金・銀祝の祝い
十二日	青森・聖母被昇天会誓願式
十六日	教区司祭団役員会
三十日	教区司祭団月例会

生してから、今年は二十年目に当たる。

七月四日、同教会の保護の聖人マリア・ゴレッティのお祝いをかねて、佐藤司教の司式による二十周年記念ミサが祝われた。

同教会の創立者でもあり、現在の主任司祭でもあるフオーレ師がカナダに帰国留守中とあって、正式のお祝いは二十五周年に祝うこととし、今年は、ささやかな記念ミサを祝うに止めたものである。

◎大湊教会
再建募金のその後



昨年九月二十一日に、大湊教会が焼失し、その再建のために募金が呼びかけられていたが、教区内の沢山の方々から温かい心が寄せられた。現在大湊教会再建募金として集められた総額は、一八九七九九六三円に達している。これは、当初の目標額一千万円をはるかに越える金額である。内訳は、

受取利息	二〇二、三四三円
火災保険	八、五〇〇、〇〇〇円
献金の内訳は、	
教区事務所取り扱い分	五六二四、八五八円
小教区	三、二一六、五八四円
修道院	九六三〇〇〇円
学校	二六八、〇〇〇円
幼稚園	一四八、〇八〇円
施設	一三〇、〇〇〇円
個人	八九九、一九四円
大湊教会取り扱い分	
再建委員として深沢守三師、平田浩師、土井勝吾師、それに地元の、横島健二師が選ばれ、再建計画をねつていていたが、この程ようやく設計図が出来上がり、八月末ごろ着工される運びとなつた。	四、六五二、七六二円
昨年の冬は、狭い仮聖堂、应急バラックで寒さをさけつつ、ひざつき合わせてミサをあげたが、今年の冬は、新装成った暖かい聖堂で一致の式をあげられるよう、冬に入る前に完成の予定である。	一〇、二七七、六二〇円
お互の助け合いの実りの暖かさを味わいたい。	

**全国召命
オリンピック！**



モントリオールで、国際オリンピックが開かれた今年、カトリック教界でも、風変わりなオリンピックが開かれようとしている。称して“全國召命オリンピック”。

競技種目は次の通り。

1. 式典ミサ（毎週一回）

2. マラソン（聖書朗読（毎日、

黙想五分）

3. 水泳（ロザリオ（毎日一連と

召命の祈り）

4. 体操（献金（毎日五円の献金）

重量上げ（節食（期間中大齋二回）

5. 自転車（訪問（週一回聖体訪問、又は病人、老人訪問）

6. これは、群馬県沼田教会召命祈禱会が、全国の、聖マリアを保護者としている教会の中から、各県一つの教会を代表として四七の教会に参加するよう呼びかけたものである。

仙台教区内では、青森県では大湊教会が、岩手県では大船渡教会が、宮城県では米川教会が、福島県では会津若松教会が選ばれている。

目に見える成績もさることながら

目に見えない祈りの精神の深まりから、召命がもえ出てくるのを期待する。

皆さんもどうですか！モグリで参加してみませんか！

（大船渡教会 うみのほし参照）

人 事 往 来

○野口司教（広島教区長）

カリタス・ジャパン担当司教として、カトリック児童収容施設協会全国大会に出席のため、六月二十九日来仙、大会に出席の傍ら、カトリック福祉諸施設を訪問、七月二日離仙した。

○エデリコ・エッレーラ師（グアダルペ会）

鎌倉日本語学校における二年間の日本語の勉学を終えて、この七月、白河教会に赴任した。昭和二十年生まれ。昭和四十七年叙階。メ

キシコ・エープラ市出身。

【事務連絡】

◎夏期休業

教区事務所は、八月九日から十四日までの一週間、夏期休暇として休業させて頂きます。ご了承下さい。但し緊急の用事はいつでも受けつけますので、東仙台司教館（〇二二二一五六一四九六五）にご連絡下さい。

◎コピー代値上げ

教区事務所内のコピーの奉仕は、安くして評判がよく、沢山の方々によろこばれて利用されていますが、コピー代は、過去二年間増え置きになっていますので、この休み明けの八月十六日から、一枚について十円値上げさせて頂きます。

B 4	A 4	B 5	A 4
三十円が四十円に。	三十円が四十円に。	二十円が三十円に。	二十円が三十円に。

● 仙台司教区教区事務所だより第3号
昭和五十一年八月一日発行
発行所 仙台司教区事務所
〒980 仙台市本町一丁目2番12号
TEL 0222 22 7377 / ●